阪神高速道路のいま

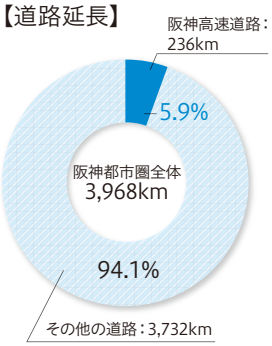
高速道路の利用には、一般道路と比べて、①移動時間を短縮し、概ね予定どおりの時間に目的地に到着できる、②安全で快適に走行できる※などのメリットがあります。阪神高速道路は、①物流経費の軽減や貨物取扱量の増加による物流の活発化、②人の移動や物流の拡大による地域の活性化、③一般道路の渋滞緩和などによる環境の改善などに役立っています。

※阪神高速道路における事故発生率は一般道路の約1/10と試算されています。

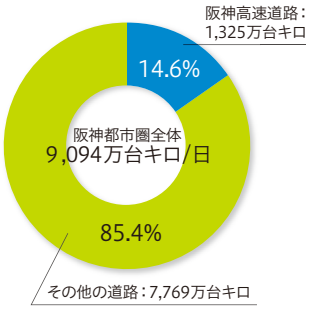
阪神都市圏における阪神高速道路の占める割合

阪神都市圏において、阪神高速道路は、道路延長では全体の5.9%に過ぎませんが、交通量では全体の14.6%を占めており、関西の交通の根幹を担っています。

【道路延長】



【交通量（走行台キロ）】

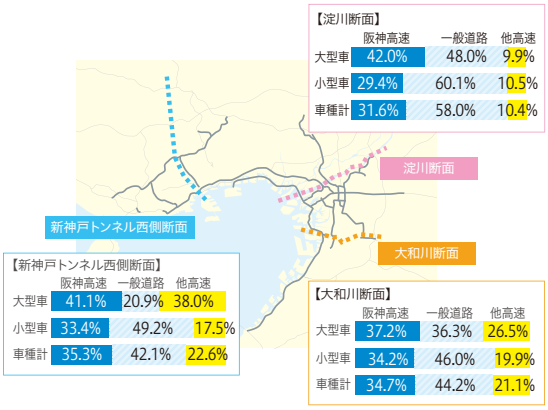


（注）阪神都市圏とは、大阪府・神戸市の全域と阪神間を合わせた地域をいう。
道路とは、国道・府道・県道・指定市の主要道路をいう。走行台キロとは、1台の車が1キロを走行する単位をいう。

出典：全国道路交通センサス（2010年）

大型車交通の分担

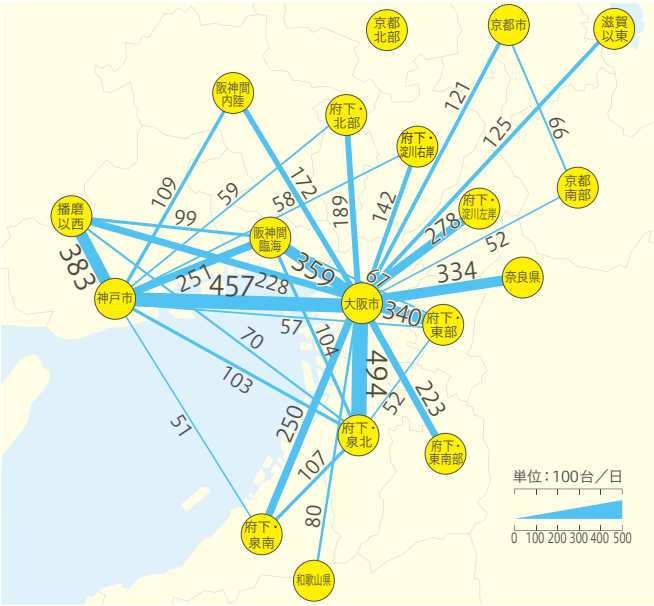
阪神高速道路は、多くの交通、特に大型車交通を分担しており、関西の物流を支えるとともに一般道路の混雑緩和などに大きな役割を果たしています。



出典：阪神高速道路（株）交通量調査（2016年）

阪神高速道路の利用状況（目的地）

阪神高速道路は、関西の各地域間を結ぶ役割を果たしており、都市圏の拡大に寄与しています。



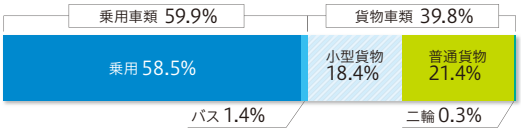
（注）上図は地域間利用交通量のうち、阪神高速道路を利用する交通量（5,000台を超える部分のみ）を示しています。

出典：第25回阪神高速道路起終点調査（2013年）

阪神高速道路の利用状況（内訳）

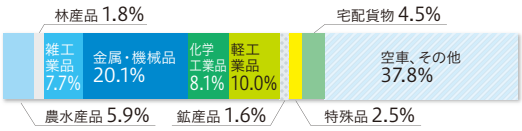
阪神高速道路は、ビジネスでの利用が多くを占めており、また、運ばれる積載物も多岐にわたるなど、関西における経済活動を支えています。

車種別利用交通

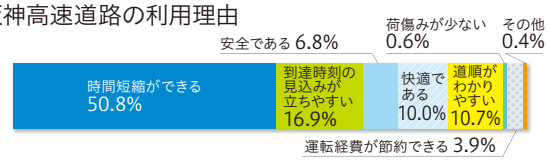


利用交通の目的

積載品目別輸送量



阪神高速道路の利用理由



出典：第25回阪神高速道路起終点調査（2013年）